

## 武州藍染について

令和4年11月14日

埼玉県立浦和高等学校 澤岡知広

### 武州地域の藍染の歴史

江戸時代後半の天明期（1781～1789年）の頃から羽生や加須、行田など北埼玉で藍が栽培されたとされる。

農家の女たちが農閑期の副業として綿糸を紡ぎ、近所の紺屋で糸を染め、それを原料として青縞を織り、工賃を稼ぐ習慣が存在した。

騎西町は本場青縞の主産地となり、明治初期までは唯一の集散地として賑い、当時は、二・七の日に市場が開かれ、市場商人が道路に蓆を敷いて生産者である農民を待ち受け、青縞を買い取った。その後騎西町では青縞の生産は減少し、それに代わって白木綿の生産が徐々に増加。これに反して加須町では、騎西町の衰退とともに市場が盛況となり、五・十の日に上町と仲町に市がたち、約30名の業者が出て青縞を買入れた。この盛況は明治30年（1897）頃まで続いたが、その後取引額は減少し、騎西町と同様に白木綿の生産が増加していった。

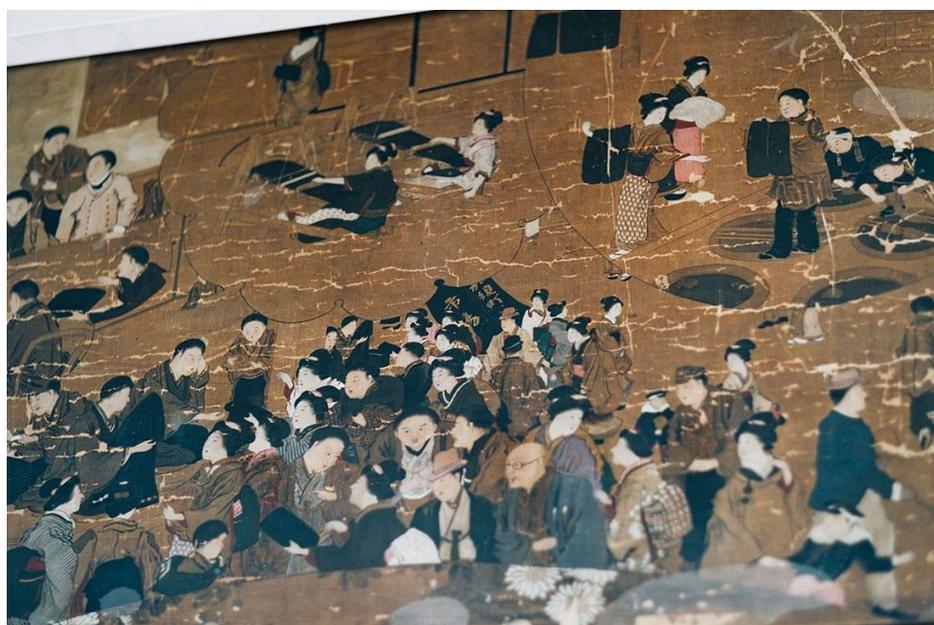


図1. 藍の生地を取引する市場「加須町市場」の様子

(<https://minne.com/mag/articles/1430>より)

明治30年以降は、青縞の集散地は羽生町へ移り、同40年ごろには製品の大部分は羽生で取引され、加須町、忍町でその残りを、騎西町ではごく一部が取引されるのみとなった。明治40年頃、埼玉県内での青縞の主産地は羽生町を中心とする北埼玉地方であり、年間の生産量は約170万反、金額では約160万円となっており、その生産の大部分は農家の副業で、羽生町を中心とした加須・忍・騎西等の買継ぎ問屋を経て、東京・京阪・名古屋・東北の各地方に送られた。

渋沢栄一は、実家の主業であった深谷産の藍玉の売買を手伝い、少年時代から大人顔負けの商才を発揮した。渋沢は、阿波の藍に負けない良い藍を作ろうと考え、良い藍を栽培した農家を相撲の番付を利用し、順番に大関、関脇、小結・・・とあて、「武州自慢鑑藍玉力競」の番付表を作り、競争力を高めた。この番付表は、渋沢栄一記念館に表示されている。



## 武州藍染の染織行程

### ① 薬(すくも)づくり

タデアイ(蓼藍)の葉が原料である。夏の開花前に収穫した葉を乾燥させ、さらに発酵させたものを薬(すくも)といい、これが藍染の原液(藍液)の原料となる。薬の製造は、乾燥した藍の葉を堆積し、灌水と切り替えしを15~20回、5~7日ごとに繰り返し発酵させる手間のかかる作業で、完成までに約3ヶ月(収穫からは約10カ月)かかる。この薬を突き固めて固形化したものを藍玉と呼ぶ。



図4 薬(すくも)

(<https://our-ai.jp/process2> より)



図5 藍玉

(<https://www.fashion-headline.com/article/7417/76636> より)

藍の生産地は日本では徳島県が有名である。

表1. 主な県の藍の生産量と主産地および品種名(2007年)

都府県名	栽培面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収量 (kg/10a)	収穫量 (t)	主産地 (市町村名)	主要品種名
徳島県	17.9	17.9	416.0	75.00	上板町、石井町、阿波市	小上粉
沖縄県	5.9	5.9	535.6	31.60	本部町	琉球藍
北海道	5.0	4.5	300.0	15.00	伊達市	
兵庫県	1.1	1.1	400.0	4.20	西脇市	小上粉
青森県	0.7	0.7	145.1	1.05	青森市	小上粉
宮崎県	0.1	0.1	750.0	0.75	三股町	
合計	30.7	30.2	422.2	127.60		

注: 小上粉(こじょうこ)はタデアイのことを指す。

農林水産省「特産農作物の生産実績調査」より作成

表 2. 阿波藍の製造歴

・ 阿波藍の栽培と収穫	
3月上旬	播種
3月下旬～5月上旬	定植（苗を本畑に植え替える）
6月下旬～7月上旬	一番刈り（苗が60cmになったら1回目の刈り取り）
7月下旬～8月上旬	二番刈り（一番刈りの刈株から伸びているものを刈り取り）
	（～9月上旬 三番刈り）
	乾燥・藍こなし（茎・葉の選別）・保管
・ 寝床での染製造	
9月上旬	寝せ込み（一番刈りの葉に同量の水をかけて混ぜ、約1mの高さに積み発酵させる）
9月中旬～12月上旬	切り返し（4～5日ごとに葉藍を崩し、水をかけ、混ぜて元に戻す）約20回 切り返しが4～5回目の時に二番刈りの葉藍を加える
10月上旬	通し（切り返し12～13回目で団子状になっている葉藍をほぐす）
11月下旬	通し（切り返し17～18回目頃）
10月～11月	タデアイの種（藍種）の収穫
12月中旬～	染を呷（かます：筵の袋）に入れ、全国の染物業者に出荷 呷一俵＝約56.25kg
2～3月	下から順に碎石、砂、もみがら、砂、粘土を重ね、 来年の作業に備え寝床の床をつくる

一般社団法人藍産業振興協会 Web サイト「阿波藍製造暦」<https://our-ai.jp/process3> により作成。

### ② 甕搔き（かめかき）

藍は水に溶けないので、染色をするためには、この藍から染液を作る必要がある。これを「建てる」と呼ぶ。武州正藍染は、微生物を発生させ藍建てした藍液で糸を染めている。良好な状態の藍液を作るには、藍を弱めずに毎日程よく攪拌させる必要があり、熟練を要する作業である。

### ③ 白っぱたき

糸染めを行うすべての白糸を手でさばく。

### ④ 総（かせ）染め

束になった状態の糸を総と呼び、これを染色する染め方が総染めである。染めては手でほぐす、の繰り返しを行い、糸を芯まで染める。手作業ならではのムラ感と、藍染めが空気に触れると藍色になる特徴との結果、総染紺織特有の『青縞』（自然に生まれる縞文様）が生み出される。染めては洗いを繰り返し、天日干して乾燥させる（酸化による発色）。



図 6. 甕搔きの様子

([http://www.nogawasenshoku.com/special\\_issue/what\\_aizome.html](http://www.nogawasenshoku.com/special_issue/what_aizome.html) より)



図 7.白っぱたきの様子

([http://www.nogawasenshoku.com/special\\_issue/what\\_aizome.html](http://www.nogawasenshoku.com/special_issue/what_aizome.html) より)



図 8.総染めの様子

(<http://www.bushuichi.com/history.html> より)

### ⑤織布

小島染織工業では、やわらかい織物の風合いを守るため、あえて昭和 40 年代に製造された坂本式自動織機（シャトル織機）を使用している。現在はシャトル織機を製造しているメーカーは存在しないが、小島染織工業ではシャトル織機を多数所有しており、メンテナンスを行いながら生産に対応している。

（型染めの場合の技法）

- ・生地を指でつまんでヒダをつくり、籠に敷き詰めることで柄を生む（籠染め）。
- ・すだれの上に置いて総柄にする。
- ・絞りや畳みによってタイダイ柄を生み出す。
- ・葉や木型を置いて柄を付ける。



図 9.籠染めの様子

(<https://minne.com/mag/articles/1430> より)

### 武州織物工業協同組合

昭和 24 年設立。現在の組合員数は 8 軒(羽生市 6 軒、加須市 2 軒(平成 30 年 1 月現在))。藍染めの普及のために親子ふれあい教室なども開催。

羽生市・加須市・行田市で生産された武州地域に由来する正藍染を施した織物、その織物を用いて生産されたハンカチ、のれん、テーブルクロス、ジャケット、ワイシャツ類などが、平成 20 年 9 月 19 日に特許庁の「地域団体商標」に登録された(第 5167617 号)。

### 参考文献

河田重三 2021.『渋沢栄一の深谷 写真で訪ねるふるさとの原風景』さきたま出版会。

### 参考 Web サイト

一般社団法人藍産業振興協会

<https://our-ai.jp/process2>

江戸時代から続く藍染のまち|羽生市

<https://www.city.hanyu.lg.jp/docs/2016012700010/>

武州一 武州と藍染め

<http://www.bushuichi.com/history.html>

武州正藍染|小島染織工業株式会社 武州正藍染 創業明治 5 年

<https://www.kojimasenshoku.com/indigodyeing/>

武州正藍染ってどんな織物?-ニッポンの記念品なら「これいい和」-伝統工芸品・日本製記念品

<https://japan-novelty.jp/column/460/>

【渋沢栄一記念館】藍玉製造農家の番付表『武州自慢鑑 藍玉力競』について

<https://www.toyahachi.com/20200112/>

ものづくり探訪「自然が織りなす深い色味。武州正藍染」|minne ともものづくりと

<https://minne.com/mag/articles/1430>

商工業の発展 青縞(あおじま)|加須インターネット博物館

<https://www.kazo-dmuseum.jp/01history/04gendai/02shoukougyou/aojima.htm>